

主の回復における唯一の働き

(金曜日——午前の第二の部)

メッセージ 5

聖なる所に関する罪科は、金、銀、宝石をもって建造することと相對する

聖書：民 18:1. I コリント 3:6-7, 9, 11-12, 16-17

- I. 民数記は、祭司の罪は聖なる所に違反して犯した罪科であることをわたしたちに見せています。今日の用語を使うなら、それらは神の働きの中で犯した罪です——18:1. I コリント 3:12 後半：
- A. 日常生活の中で犯す罪がありますが、主の働き人はもう一種類の罪を犯すことがあり得ます。それは、神の働きの中での罪です。
- B. 働きの中で罪を犯すことは、神の聖、栄光、主権に対して罪を得ることを意味します。神の働きにおいて、神のみこころと相いれないすべてのものは罪であり、それは聖なる所に関する罪科です。
- C. 神の働きには、わたしたちが決して忘れてはならない、とても重要な考慮すべきことが三つあります。これら三つの点のうち一つでも失敗するなら、わたしたちは聖なる所に違反して罪科を犯したことになります：
1. 神の働きの開始は、神のみこころにしたがっていなければなりません。わたしたち自身が開始することのできる働きは一つもありません——ローマ 11:36。
 2. 神の働きの前進は、神の力にしたがっていなければなりません。わたしたち自身の力によって成し遂げることのできる働きは一つもありません——使徒 1:8. ゼカリヤ 4:6. ピリピ 4:13. II テモテ 2:1。
 3. 神の働きの結果は、神の栄光のためでなければなりません。わたしたち自身の栄光という結果になる働きは一つもあってはなりません——ヨハネ 7:18. エペソ 3:21. II コリント 4:5。
- D. 聖なる所に関する罪科には三つの結果あるいは刑罰があります：
1. 命の力を失います。人は新鮮でなくなります。
 2. 靈的な死を経験します。病気や体の死さえもあるかもしれません。神はこのように罪を犯す人をそのままにしておくことはありません——参照、民 18:1-7. I コリント 11:29-30。
 3. キリストの裁きの座での裁きがあります。裁きの座では、聖なる所に関する罪科ほど大きな罪はないでしょう——II コリント 5:10。
- E. 神の働きの開始は、神のみこころでなければならず、そして神のみこころでなければなりません：
1. わたしたちは何かを開始する権利を持っていません。神のみこころが、神のすべての働きの唯一の開始でなければなりません。
 2. わたしたちは神の働きのどんなことも、ありふれたことと考えることはできません。わたしたちが他の人に対して新鮮であるかどうかは、靈的な事がわたし

たちにとって新鮮であるかどうかにかかっています。

F. 神の働きの前進は、神の力によってのみ遂行されることができます。わたしたちは、自分自身の能力で神のみこころを成就することは決してできません：

1. 神の力、すなわち神の「貨幣」だけが神に受け入れられます。
2. 人は神のみこころを知った後でさえ、自分自身の力、思想、吸引力、雄弁によってそれを成し遂げようとする危険性がなおあります。アブラハムがイシマエルを生んだことが一つの例です——創 16:15—17:1。
3. 働きの目標は霊的でなければなりません、わたしたちが神の目標に到達する方法と手段も霊的でなければなりません。そうでないと、わたしたちは肉を神の聖なる所へともたらずことによって、聖なる所に関する罪科を犯すでしょう——民 18:7。

G. 神の働きの結果は、わたしたちの栄光のためではなく、神の栄光のためです：

1. 神は彼の働きのために、この世で弱く、愚かで、さげすまれた者を選んできました。I コリント第1章 29 節は言います、「それはどの肉も、神の御前に誇ることはないためです」。
2. 神はわたしたちが栄光を得るのを見たくありません。わたしたちは主の栄光の中へと入ることができるだけです。
3. わたしたちはとても貧しく弱いかもしれませんが、何人かの兄弟姉妹に少しの助けを与えるとすぐに、また二、三人の人を救うとすぐに、神の栄光を盗み始めます。神の栄光を盗むことが、聖なる所に関する罪科を犯すことです。
4. ある人たちはより多くの霊的な知識と経験を持つと、霊的な高ぶりも増えることがあります。彼らはまだ自分によって働き、自分の栄光を求めます。
5. 高ぶりほど神の目に忌むべきもの、神の働きにおいて邪悪なものはありません。神は高ぶる者を「拒絶され」（サムエル上 15:23）、高ぶる者に「敵対」します（I ペテロ 5:5）。拒絶するという言葉は、だれかとの関係を断つことを意味しますが、敵対するという言葉はサタンに対して使われる言葉です（ヤコブ 4:6-7）。
6. この世で、サタンの欺きの下にある人はすべて高ぶっている人です。高ぶっている人は自分自身を知りません。自分自身を知っている人は欺かれません——ガラテヤ 6:3。

H. 普通の罪は祭司の裁きを経過しなければなりません、聖なる所に関する罪科は神に対する直接の罪であって、神がそれを直接、裁きます：

1. これは、聖なる所が神に属するからであり、聖なる所に関する罪科は神の栄光と神ご自身を侵害することであるからです。
2. 「これはとても厳粛な事柄です。わたしは尊い血の下でそれを語ることができるだけです。わたしは主の赦しを求めます。わたしはまた兄弟たちの赦しも求めます」（ウオッチマン・ニー全集、第42巻、第45編）。

II. わたしたちは神の同労者となって、「主の働きを行な」い（I コリント 16:10）、「主の働きに満ちあふれて」いる（15:58）必要があります。それは、キリストに彼ご自身をわたしたちの中へと造り込んでいただくことによってであり（エペソ 3:17 前

半)、彼がわたしたちの中で成長し（コロサイ 2:19）、わたしたちを造り変え（Ⅱコリント 3:18）、わたしたちから流れ出て（ヨハネ 7:37-38）、彼ご自身を他の人の中へと造り込んで、神の農場また神の建物である召会を生み出すためです（Ⅰコリント 3:9）：

- A. 召会は神の農場であり、金、銀、宝石を生み出します——9, 12 節。
- B. まず、わたしたちは神の農場で成長します。それから、この農場の植物は神の建造のための尊い材料となります——6-7, 12 節。
- C. 金、銀、宝石は、三一の神の美德と属性における、キリストのさまざまな経験を表徴しています。これらの尊い材料は、わたしたちがキリストを享受して生み出されたものです——12 節, 15:45 後半, 6:17。
- D. 神の建造のための尊い材料は、三一の神と関係があります。すなわち、御父の性質、御子の贖い、その霊の造り変えの働きと関係があります——Ⅱペテロ 1:4, エペソ 1:7, ヘブル 9:12, Ⅱコリント 3:18。
- E. わたしたちは神の建造のために、金、銀、宝石となりつつあります——Ⅰコリント 3:12：
 - 1. 父なる神において、わたしたちは彼の命と性質を金として持ちます。子なる神において、わたしたちは彼の贖いを銀として持ちます。霊なる神において、わたしたちは造り変えを宝石として持ちます。
 - 2. わたしたちはこれらの材料をもって建造するために、わたしたち自身がそれらで構成されなければなりません。わたしたちは、御父の性質で、御子の贖いで、その霊の造り変えで構成される必要があります。
 - 3. わたしたちは、父なる神の性質において、子なる神の贖いにおいて、霊なる神の造り変えにおいて成長する必要があります。この成長は、わたしたちを神の建造のために、金、銀、宝石とします——12, 16-17 節。
 - 4. わたしたちがキリストを食べ、それから霊的に消化し、吸収し、新陳代謝することを通して、キリストはわたしたちとなり、わたしたちは彼となります。その時、わたしたちは神の建造のために、尊い材料となります——ヨハネ 6:57, エペソ 3:17, ガラテヤ 4:19。
- F. 神の永遠の目標は建造です。すなわち、唯一の土台としてのキリストの上に尊い材料をもって建造された宮です——Ⅰコリント 3:11-12, 16-17：
 - 1. 神聖な命における成長は、神の住居の建造のための材料を生み出します。この住まい、召会は、無限のキリストの増し加わり、拡大です——エペソ 2:21-22, ヨハネ 3:29-34。
 - 2. まず、わたしたちは命における成長のための農場を持ちます。それから、わたしたちは神の永遠の定められた御旨のための建物を持ちます——Ⅰコリント 3:9, マタイ 16:18, エペソ 2:20-22, 4:16。
 - 3. 神の家としての召会の実際的な建造は、信者たちの命における成長によります——Ⅰコリント 3:6-7, 16-17, エペソ 2:20-21, Ⅰペテロ 2:2-5：
 - a. 真の建造は、命における成長です。わたしたちが建造されている程度は、わ

わたしたちが成長している程度です。

- b. わたしたちは本物の建造を持つために、自分自身を減少させ、またキリストをわたしたちの内側で増し加えることによって、成長する必要があります——マタイ 16:24, エペソ 3:17。
4. わたしたちはまた、造り変える霊と組み合わせられて、三一の神を金、銀、宝石として聖徒たちに供給することによって彼らを成就して、三一の神の属性が彼らの中へと造り込まれ、彼らの美德となるようにすることによって、彼らが造り変えられるようにすることを学ぶ必要があります。これは雅歌第1章10節後半から11節において描写されています：
- a. 造り変えとは、わたしたちの存在における、天的で、霊的で、神聖な新陳代謝の変化です。
 - b. 召会生活における造り変えは、造り変える霊によって完成されます——II コリント 3:18, ローマ 12:2。
 - c. キリストを愛する者たちは召会生活の中に入った後、その霊の造り直しによって造り変えられ始めます——雅 1:9-16 前半, 2:1-2。
 - d. この造り変えの働きには、何人かの「造り変える者」との組み合わせの必要があります。彼らは、成就する者たちであり、尋ね求める者たちを助けて、神の性質を認識させ、キリストを経験させます——1:11, エペソ 4:11-12。
- G. 木（天然の人の性質）、草（墮落した人、肉の人）、刈り株（命がないこと）をもって召会を建造することは、聖なる所に関する罪科を犯すことです。それは、神の宮また神の建物としての召会を損なうことです。そうではなく、わたしたちは、金、銀、宝石をもって建造すべきです——I コリント 3:12, 16-17。

務めからの抜粋：

聖なる所に関する罪科

神の御言は、ある罪は人の前で犯すものであり、他の罪は神の御前で犯すものであることをわたしたちに見せています。ある罪は通常の律法に違反して犯すものであり、他の罪は聖なる所に違反して犯すものです。簡単に言えば、日常生活で犯す罪と働きの中で犯す罪があるのです。民数記は、祭司の罪は聖なる所に違反して犯した罪科であることをわたしたちに見せています。今日の用語を使うなら、それらは神の働きの中で犯した罪です。大部分の人は日常生活で罪を犯すだけですが、主の働き人はもう一種類の罪を犯すことがあります。大部分の罪は普通の罪ですが、主の働き人はある特別な罪、すなわち神の働きの中での罪を犯すことがあります。わたしたちはこの事柄に特別な注意を払わなければなりません。働きに関係する罪は、必ずしも高ぶりやねたまなどのようなものを含んでいないかもしれませんが、肉が現されるとき、自己の意志が暴露される時、人が軽率に語ったり軽率に提案したりするとき、人はしばしば働きに関係する特別な罪を犯します。神の働きに携わっていない人は、聖なる所に関する罪科を犯すことはないでしょう。しかし主のために働いている人

は、他のすべての普通の罪に加えて、聖なる所に関する罪科を犯しがちです。働きの中で罪を犯すことは、神の聖、栄光、主権において神に罪を得ることを意味します。神の働きにおいて、神のみこころと相いれないすべてのことは罪であり、聖なる所に関する罪科です。

神の働きには、わたしたちが決して忘れてはならない、とても重要な考慮すべきことが三つあることを、わたしは自分に対してだけでなく、他の人たちにもしばしば言ってきました。第一に、神の働きの開始は、神のみこころにしたがっていなければなりません。第二に、神の働きの前進は、わたしたち自身の力ではなく、神の力にしたがっていなければなりません。第三に、神の働きの結果は、神の栄光のためでなければなりません。これら三つの点のうちの一つでも失敗するなら、わたしたちは聖なる所に関する罪科を犯したことになります。自分自身だけで働きを開始することはできませんし、自分自身の力で働きを遂行することもできませんし、働きの結果が自分自身の栄光になってもなりません。

働きの開始はわたしたちではなく神である

集会中、姉妹たちは兄弟たちに対して頭におおいを着けます。これは、すべての人がキリストの御前で覆われていることを表徴します。彼は主であり、彼だけがかしらです。彼だけが万物の主にあはれしく、彼だけがどんな働きの開始にもあはれしいのです。神の働きにおいては、二、三人の兄弟の話し合いを通して決定されることがあってはなりません。働きの結果と価値、すなわちそれが霊的で神に喜ばれるかどうかは、どれだけ多くの働きがなされたかによって決まるわけではありません。それは働きのどれだけのものがわたしたちによって開始され、どれだけのものが神によって開始されたかによって決まります。わたしたちが開始することが少なければ少ないほど、それはますます霊的で、価値があり、神に受け入れられるようになります。神に感謝します、わたしは何事も開始する必要はありません。神がすべてのことを案配されます。わたしには何かを考え出す責任を持つ必要はありません。わたしたちはしばしば、これもあれもすべきであると考えますが、神にはご自身の意思があります。わたしたちは神の参謀になる必要はありません。わたしたちは、ただ神のみこころを行ない、彼のみこころにかなっているかどうかを知る必要があるだけです。結果について心配する必要はありません。神の働きの開始は神のみこころでなければならず、そして神のみこころだけでなければなりません。わたしたちは何を開始する権利も持っていません。神のみこころが、神のすべての働きの唯一の開始でなければなりません。

わたしは各地の責任の兄弟たちに質問をしたいと思います。あなたが自分の地方で働きを開始するのは、多くの人が望んでいるからでしょうか、あるいは良い結果を生み出すのが当然のことだからでしょうか？あるいはあなたがそれを行なうのは、それが神のみこころであると知っているからでしょうか？兄弟たち、何かを軽率に開始することは、聖なる所に違反する罪科を犯すことです。霊的な事柄では、あなた

自身に提案や指図をする立場はありません。神はあなたがかしらであることを必要としません。ヨブ記で神はヨブに言いました、「知識のない言葉によって、助言を暗くするこの者はだれか？……わたしはあなたに尋ねるので、あなたはわたしに示さない」(38:2-3)。毎回わたしはこれを読むとき、内側で笑います。人は神の参謀になることを好みます。しかし、神はどの参謀も雇いません。パウロは言いました、「だれが彼の参謀になったでしょうか？」(ローマ 11:34)。わたしは、同労者たちが聖なる所での働きに真剣でないことを恐れます。おそらくあなたは最初、実に注意深かったのですが、今日、実に不注意で怠惰になっています。少しばかり多くの権威を持っている人は、さらに多く語り、さらに多く支配しようとします。主の働きに入ったばかりの人は、八年あるいは十年間働いてきた人より注意深いかもしれません。

民数記は、聖なることと俗なることの区別をわたしたちに見せています。わたしたちは俗な方法で何かに触れることによって、聖でないことへと陥ってはなりません。多くのことは聖であって、俗ではありません。あなたはかつて、だれかをバプテスマしたことがあるでしょうか？ 初めてだれかをバプテスマしたとき、おそらくあなたは実に真剣だったでしょう。しかし五回か十回の後、それはあなたにとってありふれたものになります。聖なる所の中に新しいものはありません。祭司は臨在[供え]のパンを代え、ともしびを整え、香をたきました。彼らは日ごと年ごとに同じ事を行ないました。しかしほんの少し不注意であれば、彼らは聖なる所に関する罪科を犯し、死んでしまったでしょう。ですから、どの祭司も自分の働きをありふれたものと考えすることはできませんでした。働き人は初めてメッセージをするとき、とても真剣です。しかしさらに二、三回語った後、それは彼にとってありふれたことになります。多くの人がわたしに言いました、「あなたはいつも準備されているように見えます」。しかしわたしは証しすることができます。毎回わたしは新約聖書を読むとき、それを以前に決して読んだことがないように感じます。そして毎回わたしは語るとき、それが初めてであり、以前に決して語ったことがないかのように感じます。兄弟たち、わたしたちは神の働きのどんなことも、ありふれたことと思うことはできません。わたしたちが他の人に対して新鮮であるかどうかは、霊的な事がわたしたちにとって新鮮であるかどうかにかかっています。

パンさきを例に取ります。わたしたちは初めてパンを祝福するとき、その意義を厳粛に意識しています。わたしたちは主の御前にとっても注意深く、真に祭司のようです。自然に、神の力と神の霊がわたしたちに臨みます。しかし徐々に、わたしたちは気楽になります。わたしたちの霊的な感覚は以前のように強くなく、祈りと礼拝のための霊がほとんどなくなります。ある人は、神は特定の時、自分に力と油塗りを与えてくださらなかったことを認識しているかもしれません。しかしながら、彼は以前それを行なったことがあるので、今日も同じ事ができると思っているかもしれません。このようにして、彼は霊的な新鮮さと命の力を失います。聖なる所に関する罪科に対して、三つの結果あるいは刑罰があります。第一に、命の力を失うことがあります。人は新鮮でなくなります。第二に、霊的な死の経験があります。病気や体の死さえあるかもしれません。神は、このように罪を犯す人をそのままにしておくことはありま

せん。第三に、裁きの座での裁きがあるでしょう。わたしには、裁きの座では、聖なる所に関する罪科ほど大きな罪はないという深い感覚があります。

兄弟たち、わたしたちはこの事柄を真剣に取らなければなりません。わたしたちは働きを開始することはできません。人は自分の願いがかなえられてはじめて満足することができます。同じように、神は彼のみこころが成就したときはじめて満足することができます。わたしたちには、神のみこころを行なう以外に他の選択はありません。わたしたちは神のみこころを他の何にも置き換えることはできません。この世のすべての犠牲も、神のみこころに置き換わることはできません。人は、自分の働きは神のみこころよりも良く、神のみこころは間違っていると考えるかもしれません。しかし、神はどんな参謀をも必要とされないことを、どうか覚えていてください。神はわたしたちに彼のみこころだけを行なってもらいたいのです。わたしたちは神のために多くの事を行ってきたかもしれませんが、どれほど多くを行ってきたとしても、重要な事は神のみこころだけです。

神の働きの前進は神の力によるのであって、 自分の力によるのではない

神の働きの前進は、神の力によってのみ遂行されることができます。わたしたちは神の力によってはじめて、神のみこころと定められた御旨を完成することができます。神のみこころを完成するために、開始が神からでなければならぬだけでなく、遂行する過程も神のみこころにしたがっていなければなりません。わたしたちは、自分自身の能力で神のみこころを成就することは決してできません。かつてわたしはポケットに三百ドルを持って香港に行った時、九龍から香港まで船で渡らなければならず、それは五セントかかりました。わたしが人におつりをくれるように求めると、彼は、わたしのお金には価値がないと言いました。わたしは彼に三百ドルを見せましたが、彼は、わたしのお金は役に立たないと言い張りました。それから彼はわたしに、香港では香港通貨だけが認められていると告げました。これは、中国中央銀行が発行した通貨だけを認める中国税関と似ています。神のみこころと神の力との間には、同じような関係が存在します。あなたがポケットにどれほど多くの「貨幣」を持っているかが重要ではなく、あなたはそれでは神の王国で何も買うことができません。神の力、すなわち神の「貨幣」だけが受け入れられます。人は神のみこころを知った後でさえ、自分自身の力、思想、吸引力、雄弁によってそれを成し遂げようとする危険性がなおあります。アブラハムがイシマエルを生んだことが一つの例です。ここに問題が潜んでいます。働きの出発点と最終目標は神にしたがっているかもしれませんが、人が神のみこころを成し遂げるのに用いる手段と力には大きな意義があります。主の働き人はすべて、神のみこころを成し遂げるのに用いる手段について、自らを調べなければなりません。

働きの目標は霊的でなければなりません。しかし、わたしたちが神の目標に到達する方法と手段も霊的でなければなりません。そうでないと、わたしたちは肉を聖なる

所へともたらずことによって、聖なる所に関する罪科を犯すでしょう。神は言われました、「他の者が近づくな、死に渡されなければならない」(民 18:7)。神の働きの成就是、わたしたちの力と何の関係もありません。問題は、わたしたちがどれほど多く行なってきたかではなく、神の力にしたがってことを行なってきたかということです。ある兄弟が言いました、「天からのものだけが天に戻ることができます」。ある姉妹も言いました、「主が来られたなら、わたしたちは家に帰ることができます」。お尋ねしますが、わたしたちが主の所に行くとき、家に帰るのでしょうか、それとも客として訪問するのでしょうか？ 答えは、わたしたちが主から来たかどうかにあります。もし主から来たなら、わたしの戻ることは家に帰るようなものでしょう。そうでないと、それは訪問のようなものでしょう。わたしはアモイに帰るところであると言うことはできません。なぜなら、アモイはわたしの故郷ではないからです。わたしたちが天に戻ることにしているなら、まず天から来なければなりません。人がアダムから彼の力を引き出すなら、アダムに戻るができるだけです。彼は決して神に戻ることができません。働き人は、神の働きは神の力によってのみ成し遂げられることができることを覚えておかなければなりません。そうでないと、どの働きも神を喜ばせることはできません。

神の働きの結果はわたしたちの栄光のためではなく、 神の栄光のためである

神の働きの開始は神のみこころであり、神の働きの前進は神の力です。この二つのものはわたしたちと何の関係もありません。同じ原則で、神の働きの結果はわたしたちの栄光ではなく、神の栄光です。わたしがある場所でメッセージをした後、ある兄弟がわたしの所に来て言いました、「二一兄弟、今夜あなたはとてもうまく語りました！ あなたはそれを誇っていますか？」。わたしはすぐには彼に答えませんでした。なぜならだれもかつて、わたしにそのような質問をした人はいなかったからです。わたしはそれについて考え、わたしは自分の語ったことを誇っているかどうか、自問しました。そしてわたしは彼に答えて言いました、「わたしは以前このような質問について決して考えたことがありませんでした。おそらくわたしはとても誇っていますが、そのことを決して考えたことがありませんでした」。その夜わたしは、わたしたちが神のみこころと栄光のためだけであるなら、決して神の栄光を奪うようなことを考えないことを学びました。もし神の栄光を奪う思いを持つなら、わたしたちは必ず第一点と第二点で問題を持つでしょう。

この点でもう一つの問題が生じます。なぜ神は人が行ないによって救われることを許さないのでしょうか？(エペソ 2:8-9)。神が救いの働きを独占している目的は何でしょうか？ その目的は、神がすべての栄光を得たいということです。人が行なう働きの量は、人が受ける栄光の量を決定します。神はわたしたちに、神の栄光にあずかってもらいたくないのです。ですから、神はわたしたちが何をすることも許されないのです。こういうわけで、神は彼の働きのために、この世で弱く、愚かで、さげすまれた者を選んできました。コリント人への第一の手紙第1章 29 節は言います、「そ

れはどの肉も、神の御前に誇る事が出来ないためです」。神はわたしたちが栄光を得るのを見たくありません。神は人にあらゆるものを与えることができます。神は御子さえ喜んで人に与えられます。しかし彼は彼の栄光を人に与えたくありません。わたしたちは主の栄光の中へと入ることができるだけです。わたしたちはとても貧しく弱いかもしれませんが、何人かの兄弟姉妹に少しの助けを与えるとすぐに、また二、三人の人を救うとすぐに、神の栄光を盗み始めます。神の栄光を盗むことが、聖なる所に関する罪科を犯すことです。わたしたちは容易に主の栄光を盗む罪を犯してしまいます。

わたしたちのだれも、盗人になりたくありません。しかしながら、神の栄光を盗むことは窃盗行為です。神は、わたしたちが外側の悪い行為を取り除くだけでなく、神の栄光を盗まないよう求めています。神はすべての善の神であり、わたしたちはすべての悪の人です。わたしたちは、すべての善は神の中だけに見いだされるということができるだけです。神の栄光を盗むことが、聖なる所に関する罪科を犯すことです。臨在[供え]のパン、燭台^{しよくだい}、香壇はすべてキリストです。キリスト以外に、聖なる所には何もありません。神は聖なる所の中で、わたしたちに何の自分の栄光も持ってもらうたくないのです。人は至聖所に入るなら、キリストである契約の箱と、契約の箱の上の神の栄光を表すケルビムだけを見るべきです。幕屋の中で見るものはすべて、神の栄光と関係があります。宮は神の栄光で満ちていました。宮の中で、わたしたちはキリストだけを見ます。犠牲さえ見ません。

今日の問題は、だれが神の栄光にあずかる資格があるかということです。昨年、神はある兄弟たちを彼の働きに召したかもしれません。神はあなたにその霊の注ぎ出しの経験を与え、そしてあなたは勝利の命を受けたかもしれません。過去一年間、わたしは多くの人が主のためにすばらしく働いたと聞きましたが、ある人たちが高ぶり始めていることを心配しています。より多くの霊的な知識と経験を持つと、霊的な高ぶりも増える人がいることを、わたしは心配しています。彼らはまだ神のみことろと栄光を見ていません。ですから、彼らはまだ自分によって働き、自分の栄光を求めます。聖書が言っていることを聞いてください。それは、神は高ぶる者を「拒絶され」（サムエル上 15:23）、高ぶる者に「敵対」する（I ペテロ 5:5）と言います。聖書でこれ以上に強い言葉を見いだすことは困難です。「拒絶する」という言葉は、だれかとの関係を断つことを意味しますが、「敵対する」という言葉はサタンに対して使われる言葉です。高ぶりほど神の目に忌むべきもの、神の働きにおいて邪悪なものはありません。わたしたちには、ちりと灰の中以外に立つべき立場はありません。

この世で、サタンの欺きの下にある人はすべて高ぶっている人です。高ぶっている人は自分自身を知りません。自分自身を知っている人は欺かれません。わたしたちは神の御前に来るとき、自分が持っているものはすべて汚れていることを認識しなければなりません。もし主の血が絶えずわたしを覆わなければ、わたしはあえて神のために働くことをしません。事実、もし主の血のおおいがないなら、わたしはクリスチャンになることさえできません。あなたは主の恵みからでないもので何を持っているで

しょうか？ あなたは何らかの面で他の人より良いと思っているのでしょうか？ あなたは何らかの面で他の人より聖でしょうか？ 神があなたの内側にあるものをすべて暴露するなら、あなたは内側にどれほど多くの汚れがあるかを見いだすでしょう。この数日間、わたしたちはある兄弟を除名することについて話し合ってきました。毎回、神に来るとき、わたしたちは畏れとおののきをもって来ました。主の恵みがなければ、わたしたちはわたしたちの兄弟より悪くなっていたでしょう。

わたしたちは今日、神の恵みの下にあります。わたしたちはまだ、神の栄光の中へと入ることはできません。わたしたちは神の栄光を得ることができる前に、復活の時を待たなければなりません。今日わたしたちは、常に食卓の下で物乞いしている乞食のラザロのように、卑しく役に立たない状態にいるにすぎないのです。わたしたちは、神の御顔の前で真にへりくだって恵みを受け入れる人になれるだけです。

残念なことに、神の働きにあずかる人が、聖なる所に関する罪科を犯すことがあります。聖なる所に対する罪は何と邪悪なことでしょう！ 民数記第18章を読むなら、聖なる所の中で犯された罪の罰は、本来は死であったことを見ます。聖なる所に近づく罪の結果は死でした(1-7節)。聖なる所に対する罪は、人の裁きを経過する必要はありません。神がそれを直接、裁かれます。聖なる所に近づく人は直ちに死にます。祭司がそれを裁く必要はありません。普通の罪は祭司の裁きを経過しなければなりません。聖なる所に関する罪科は神に対する直接の罪であって、神がそれを直接、裁きます。多くの罪は、間接的に神に対して罪を得ることで、聖なる所に関する罪科は、神に対する直接的な違反です。これは、聖なる所が神に属するからであり、聖なる所に関する罪科は神の栄光と神ご自身を侵害することであるからです。これはとても厳粛な事柄です。わたしは尊い血の下でそれを語ることができるだけです。わたしは主の赦しを求めます。わたしはまた兄弟たちの赦しも求めます。(ウオッチマン・ニー全集、第42巻、第45編)